

シナプス

第204号

明るく 優しく たくましく



学校法人 大東中央学園

大東中央
幼稚園

大東中央幼稚園園長室だより
平成25年9月18日発行

☆園長コラム ☆キンダーカウンセラーコラム
☆担任の保育日誌から ☆身体測定結果

ごく当たり前の生活習慣で！ー2

日々の子どもたちの言動を見ていると【転倒した子に手を貸して「大丈夫？」等の声をかけ、手足の砂を払い落としてあげる。先生に伝える。応急手当の出来る事務所につれて来てあげる。】【泣いている子には「どうしたん？」の声かけとともに先生に伝えてくれる。】【高い木の枝にボールが引っかかって困っている様子を見て、木を揺すってみたり下からボールを当てたりして、枝上のボールを落としてあげる。】【落としたハンカチやおもちゃを拾って渡してあげる。】【落とし物を事務所に届けてくれる。】【先生の片付けのお手伝いを競うようにしてくれる。】【お遊戯等では、並ぶ順を教えてあげる。】【騒がしい時には「しーっ！」と言い合う。】等々の言動が、ごく当たり前の幼稚園生活になっていますが、これらの言動がごく当たり前に行われるためには、**子どもたち一人一人の心根が平穏でなければなりません。敵対する気持ちよりも協調する気持ち・共感共鳴出来る気持ちを持っていなければなりません。すなわち情緒の安定状態がなければならないのです。**

幸いなことに、子どもたちはどの子も、前述のように常に優しい心根を持って生まれて来ています。ヒトの本能の一つだとも言える事柄です。

このことは、去る8月8日の毎日新聞夕刊記事『幼児の親切「見返り」11倍』にも、以下の様に示されています。【「**情けは人のためならず**」は本当だった一。友だちに親切にした幼児は、周りにいる別の幼児から普段の11倍以上の頻度で親切にしてもらえることが、大阪大の大西賢治助教（発達心理学）らの研究で分った。他人への親切がやがて良い報いになって戻ってくることを科学的に示す …中略… **困っている他人を見逃さない「利他性」はヒトに特有とされる。大西さんは「人間が生き残るためには他者との協力が不可欠だ。**

親切な行動を評価し、周りから返してもらえる仕組みが、進化の過程で備わったのではないかと話している。】

本園総幼研教育の体育ローテーションは、体体力の向上よりも、運動能力の向上よりも、どの子も生まれながらに持っている**運動本能を満足させ、みんなで一緒に活動することで仲間との連帯感を楽しみながら群れ遊びの基礎的ルールを体験する。**仲間との連帯感を楽しむ中で仲間の信頼関係をも構築する。補助・助言・褒め言葉をもらう先生（大人）との信頼関係の醸成等も加わって**子どもたちの情緒の安定を引き出す**ことを大切に考える活動です。

日課活動に於いても、言葉や文字を覚えさせようという構えは毛頭なく、先生と子どもたちとの「**言葉**」の**キャッチボールを楽しむ**ことであり、子どもたちにとっては最高に楽しめる遊びなのです。みんなで一緒に大きな声を張り上げることによって、集中力や行動力、記憶力や想像力などの心根の発達にもつながるものであり、先生と子どもたち、また子どもたち同士の信頼感や仲間意識をも高めて**情緒の安定を図る**活動です。

体育ローテーションと日課活動の総幼研教育の二つの大きな柱によって、子どもたちの情緒の安定を得て、前述の様な優しい言動を生み出し、それを大きく育むことが、ごく当たり前の幼稚園生活を過ごす根底になっています。

もう一つの本園総幼研教育の重要な柱は、音楽活動と絵画造形表現活動ですが、合奏・合唱・共同絵画等で、互いに共感・共鳴しながら楽しい活動の根底に「**きれい・汚い**」の認識を確立して、**日常生活の言動が清く正しいものに出来る様、その基礎基本を体得していくための活動です。**

本園の情操教育の根幹は、以上の活動内容をごく当たり前の生活の中で、子どもたちに提供し続けることにあります。 辻本 博人